

奈良伝統工芸後継者育成研修について

奈良市では、奈良伝統工芸の後継者を育成・支援することにより、その技術・技法を後世に伝承することを目的として平成18年から奈良伝統工芸後継者育成研修を実施しています。

また、研修修了生については、公募展等での入賞、市の事業やなら工芸館を活用しての販路拡大など、相当の成果をあげています。

〈研修内容〉

- ・工房主からの指導等による技術研鑽を行う
- ・なら工芸館において行う奈良伝統工芸の技術的な自己研修
- ・なら工芸館で開催される各種催しへの参加

その他にも研修終了後の自立を見据えた経営力向上支援プログラム(Nara Crafts' Cross Project)を受講します。

第7期 研修生

研修生	研修科目	工房主
伊原 夕貴	奈良漆器	小西 寧子
出口 紗也佳	奈良漆器	山本 哲

Ihara Yuki 伊原 夕貴

1990年 生まれ

2013年 東北芸術工科大学
芸術学部美術科工芸
コース漆芸専攻卒業



自己紹介

大学で漆芸を学び、約10年間制作活動をしてきました。奈良漆器の特徴である螺鈿技法は、他の工芸品にはない独特の美しさがあります。この美しさを存分に生かした作品を制作するために、奈良漆器の伝統技術を学びたいと考えています。

研修計画（研修期間3年間での抱負）

本研修での作品制作は「色漆と螺鈿を用いた色彩表現の拡張」をテーマとします。私はこれまで主に色漆を用いて作品を制作してきました。色漆は漆特有の艶と経年変化による鮮やかな発色が魅力です。しかし、漆と色素の相性は難しく、色数は限定されています。より色彩豊かな漆芸品を制作するためには、色漆だけでは限界があります。そこで、貝が持つ真珠層の複雑な色味を、色漆と組み合わせることにより、新たな色調が生まれ、従来よりカラフルな漆芸品を制作できると考えました。奈良漆器の伝統を取り入れつつも現代を生きるみなさまの手元で生きる漆芸品として、生活用品やアクセサリーを中心に制作・発表していきたいと考えています。

Deguchi Sayaka 出口 紗也佳

1990年 生まれ

2015年 東北芸術工科大学
芸術学部美術科工芸
コース漆芸専攻卒業



自己紹介

幼少の頃より美術に関心があり、特に心惹かれたのが工芸の世界です。高校生の時に漆塗りを体験し、より深く学びたいと思い大学に進学しました。大学では髹漆や乾漆、蒔絵等の基本的な技術を一通り習得し、現在は主に茶道具や立体作品を制作しています。

研修計画（研修期間3年間での抱負）

漆芸には様々な技法がありますが、貝の色味を活かした表現が好きです。制作においては薄貝を用いて加飾をすることが多いですが、奈良漆器の特徴でもある厚貝を使った螺鈿には薄貝とはまた違う色味の美しさがあり、作品に取り入れてみたいと思っていました。研修では厚貝の螺鈿技法や、正倉院宝物など奈良漆器の核となるような作品や歴史について学び、これまで培ってきた技術と組み合わせた作品を制作していきたいです。3年間という限られた時間ではありますが、技術の研鑽に努め、紡がれてきた伝統的な文化を次の世代に伝えることができるような作家を目指していきたいです。